

第7章

環境保全啓発活動

第7章 環境保全・啓発活動

—持続可能な社会を目指して—

高度な経済成長と共に私たちのライフスタイルが変わり、便利さや物質の豊かさなど優先した結果から大量生産・大量消費・大量廃棄といった状況が生じています。これは地球温暖化や生物多様性といった地球的規模の問題につながります。

自分たちの生活を見直すことが、地球規模の問題解決に役立ちます。自家用車の使用・冷暖房の温度設定・待機電力などに気をつける・・・日常生活の中でできることを無理せず力まず行う・・・など、持続可能な社会の推進のためには、継続して行うことが大切です。

本市では、持続可能な社会の実現に向け、市民への環境保全活動の啓発等を実施しました。

こどもエコクラブの支援や夏休み環境教室・かたの環境講座の開催などの啓発・学習事業を展開するとともに、環境基本計画の推進など市民との協働の取組を推進しました。また、19年度から運用している環境マネジメントシステム(環境自治体スタンダード:LAS-E)により市役所の事務事業における環境負荷を低減するよう取り組みました。

1. 環境教育

環境にやさしい暮らしを啓発するため、以下の事業を実施しました。

(1) こどもエコクラブの支援

(財)日本環境協会が実施している「こどもエコクラブ事業」に基づき、市内のこどもエコクラブに対して、クラブ間の交流や活動の支援、情報の提供等を行いました。また、「エコロジカルとれーにんぐ」や各クラブが実施する「エコロジカルあくしょん」の報告を受け、その活動内容を確認しアースシールを発行しました。

登録クラブ 2クラブ(平成 28 年 3 月末日時点)

クラブ名	クラブ員数	サポーター数
かたの少年少女クリーンパトロール隊	14 人	10 人
Young Gardener Club	10 人	5 人

(2) 夏休み環境教室

交野の自然について学んでもらうことを目的に開催し、樹木の観察や竹とどんぐりを使った工作を実施しました。

実施日:平成 27 年 7 月 29 日(水)

場 所:いきものふれあいセンター

参加者:19 名(スタッフ含む)

講 師:都市近郊の森を育てる会

(3) かたの環境講座

温暖化を始めとする環境問題への対策には、市民一人一人の足元からの行動が必要ですが、その重要性を認識してもらうことが最も難しい課題でもあります。その課題にひとりでも多くの市民が気付き、行動して頂けるよう啓発し、また、環境保全活動のリーダーとなる人材を育成することを目的として、かたの環境講座を 5 回開催しました。大阪市立大学理学部附属植物園と共催で、フィールド学習もふんだんに盛り込んだ講座を実施しました。

第 1 回 「スパイダー・ウォッチング」
日 時:平成 27 年 7 月 18 日(土)10:00~12:30
講 師:元追手門学院大学 教授 西川 喜朗 氏
受講者数:32 名

第 2 回 「タケの不思議発見」
日 時:平成 27 年 8 月 22 日(土)13:00~15:30
講 師:大阪市立大学 講師 植松 千代美 氏
受講者数:32 名

第 3 回 「花のどこを食べている?~くだもの・やさいから探る進化のひみつ~」
日 時:平成 27 年 10 月 24 日(土)13:00~15:30
講 師:大阪市立大学 教授 大久保 敦 氏
受講者数:32 名

第 4 回 「どんぐりを通して学ぶ、樹木のいろいろ」
日 時:平成 27 年 11 月 21 日(土)13:00~15:30
講 師:大阪市立大学 准教授 名波 哲 氏
受講者数:12 名

第 5 回 「春見つけた!植物園のフィールド探検」
日 時:平成 28 年 3 月 26 日(土)13:00~16:00
講 師:大阪市立大学 講師 植松 千代美 氏
受講者数:20 名



2. 市民との協働の推進

(1)環境フェスタ in 交野 2016 の開催

テーマ「未来へつなぐきれいな地球」として私たちの暮らしの中から様々な環境を考え、地球環境問題、身近なゴミ問題、里地・里山保全など自然環境問題等について、環境フェスタの開催により広く市民に啓蒙・啓発し、また団体間の交流を図り、地域からの行動を喚起することを目的とし、市民・団体・事業者・行政が一体となり開催しました。

日 時:平成 28 年 3 月 13 日(日)

場 所:星の里いわふね

来場者数:約 3,084 名

3. 環境基本計画の推進

交野市環境基本計画推進会議(交野みどりネット)と協働で 4 つの分野ごとに基本計画にあるプロジェクトを推進しました。

(1)環境基本計画の推進に関する普及啓発

ウォークラリーを開催し、環境に関するクイズやゲームを実施する中で、里山を楽しんでもらい、環境についての啓発も行いました。また、「めざせ!交野エコ達人入門講座」では全 6 回実施、のべ 149 名の参加がありました。

環境フェスタへの参加、ウェブサイトの公開を通じて、交野市環境基本計画及び交野市環境基本計画推進会議について、市民への周知を行いました。

(2)自然環境分野

プロジェクト 1「里山を知ろう・里山大好き」を実施し、自然環境についての知識と保全活動の意義を市民に周知しました。のべ 116 名の参加がありました。

プロジェクト 2「実践!里山保全活動」の講座(全 8 回)を実施し、17 名の参加がありました。また、月 3 回程度の実践活動を行い、里山の整備・保全に努めました。

(3) エコ生活分野

プロジェクト 3「やる気ができるエネルギーダイエット」を実施し、省エネを行う意義と実践に向けての講義や環境家計簿のつけ方を紹介することで、省エネやエコの意識向上に努めました。

(4) エネルギー分野

プロジェクト 1「そらいけ！ソーラーパネル」に関する講座では、ミニ太陽光発電システムを組み立てることで、太陽光エネルギーについての知識を高めました。

プロジェクト 2「星のまち☆エコドライブ」の普及のためにエコドライブシミュレータの体験会を行い、ステッカーを進呈しました。

4. 環境マネジメントシステムの構築・運用

すべての職員が、環境の視点を持ちながら業務に当たることを目指し、環境自治体会議のシンクタンクである環境政策研究所が、環境自治体と呼ぶにふさわしい自治体の目安として制定した LAS-E(Local Authority's Standard in Environment:環境自治体スタンダード)に沿った環境マネジメントシステムを構築し、19 年 6 月から運用を開始しました。

各職場における省エネ・省資源行動の徹底や、職員への研修(集合、職場研修)の実施、環境情報の市民への公表など LAS-E の規格に沿った取組を進めました。また、LAS-E の特徴の一つでもある市民による監査が実施され、判定委員会による取組の合否判定を受けました。

(1) 監査及び判定

○独自目標監査

実施日:平成 27 年 6 月 15 日

監査員 5 名(市民 2 名、市職員 2 名、専門家 1 名)

○共通実施項目監査

実施日:平成 27 年 11 月 25 日・26 日・27 日

設問数 607 問

対象部局 71 部局

個別監査 市長他 21 名

監査員 29 名(市民 14 名、市職員 13 名、専門家 2 名)

○判定

実施日:平成 28 年 3 月 10 日

○LAS-E 実施項目判定(共通実施項目判定)

判定事務手続き・資料作成、判定委員会召集・開催、所見の発行等

結果: 第 1 ステージ・第 3 ステップ 合格

第 2 ステージ・第 2 ステップ 合格

(2) 目標達成状況

LAS-E では取組を実施するだけでなく、数値目標を立てることも要求されています。

平成 27 年度の目標及び結果は次のようになりました。

平成 27 年度 独自目標取組結果一覧（第 1 ステージ）

項目	H27 結果	基準年値	削減率	目標	結果
電気使用量 (kWh)	3,832,003	5,853,854 (H21)	34.5%	25.0%削減	○
ガソリン使用量 (ℓ)	57,650	58,328 (H26)	1.2%	削減	○
軽油使用量 (ℓ)	65,612	71,303 (H21)	8.0%	5.0%削減	○
灯油使用量 (ℓ)	159,525	184,689 (H21)	13.6%	5.0%削減	○
LPG 使用量 (kg)	18,940	31,068 (H21)	39.0%	30.0%削減	○
都市ガス使用量 (m ³)	224,745	243,885 (H26)	7.8%	削減	○
水使用量 (m ³)	103,316	119,442 (H21)	13.5%	10.0%削減	○
廃棄物の排出量(袋)	39,577	37,704 (H26)	-5.0%	削減	×
コピー用紙 (購入量)(枚)	7,214,350	7,110,575 (H26)	-1.5%	削減	×
CO ₂ 換算温室効果ガス 排出量 (kg-CO ₂)	2,298,421	2,652,611 (H21)	13.4%	5.0%削減	○
職員研修の回数	3 回開催	—	—	年 2 回 以上開催	○
実行責任者研修 の回数	6 回開催	—	—	年 2 回 以上開催	○
環境に関する 情報の提供	年 6 回 以上提供	—	—	年 6 回 以上提供	○

平成 27 年度 独自目標取組結果一覧（第 2 ステージ）

項目	H27 結果	目標	結果
市内防犯灯の LED 化	4,015 灯	全体の 60% 設置 (5,500 灯のうち、3,300 灯設置)	○
公共下水道の推進	94.9%	市内下水道普及率 94.8% 以上	○
安心安全な水道の安定的な給水	7 割	自己水割合 7 割を維持	○
自然環境保全事業	367 名	イベント参加者数 200 名以上	○
自然・緑地環境等の維持管理	4 件	指定樹木 4 件以上	○
資源ごみのリサイクルの推進	19,180 kg 85.4%	残渣処理量 20,000 kg 以下 残渣資源量 80%	○
緑とリサイクル事業 (剪定枝・伐採樹木のリサイクル)	7,680 袋	堆肥配布数 8,000 袋	×
農業団体活動の支援	4 件	農業団体等の数 4 件以上	○
市民参加による農地の保全	3 箇所	市民農園の幹旋や景観形成作物の 栽培支援実施 4 箇所以上	×
地球環境への負荷を定量的・定期的に把握	2 回	年 2 回以上	○
数値的に設定された独自目標 (モアチャレンジ)の設定	73 職場	各職場 (74 職場) 1 つ以上設定	×
環境保全の啓発	431 名	環境講座等の参加者数 250 名以上	○
ごみの減量化・リサイクルの推進の啓発	6 回	広報紙等への啓発記事の記載回数 6 回以上	○
農とふれあい機会の提供等	2 件	農業体験開催数 3 件以上	×
市民・事業者が取り組んだ景観まちづくり の活動を広報紙などで紹介	0 件	景観まちづくりの活動の紹介を年に 1 回以上	×

5. 他自治体などとの協力・交流

環境自治体会議

平成 18 年度から加入した環境自治体会議(1992 年設立)は環境自治体会議をめざす自治体が、情報交換や相互交流、研究・実践活動を進める場として創られたネットワーク組織です。

第 23 回環境自治体会議「いこま会議」に参加しました。

- ①日 時 平成 27 年 5 月 21 日(木)～5 月 23 日(土)
- ②場 所 奈良県生駒市
- ③内 容 5 月 21 日 基調講演「住宅都市からの『環境モデル』の期待」
パネルディスカッション
テーマ「環境モデル都市実現へのまちづくり」
5 月 22 日 12 のテーマごとに分科会を実施
5 月 23 日 いこま会議分科会報告及び成果まとめ